

2018年3月

放課後等デイサービスガイドラインによる自己評価について

うめだ・あけぼの学園
 指定日通園室
 放課後等デイサービス

放課後等デイサービスの支援の質の向上と支援内容の適正化を図る為、放課後等デイサービスガイドラインに基づき実施した自己評価の結果を公表します。

実施期間：2017年12月中旬～1月中旬	(職員自己評価・保護者等アンケート調査の2種)
回収率：保護者	78.1% (43人/55人：提出者数/配布数)
職員	100.0% (7人/7人)
各項目に関する回答の様子：別紙参照	

<調査からの読み取りと改善点>

	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備 適切な支援の提供 職員配置・専門性	保護者向けアンケートにおいて、「職員の配置数や専門性は適切であるか」「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか」「活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか」の項目で特に高い評価を頂いた。学齢児にとってのスペース・備品としては決して十分とは言えないが、工夫し活用する中で一定の評価をいただいた。	専門スタッフによる個別的なニーズを重視してのグループ・ペア形態のサービスに評価を頂いた。専門性については、支援の要として、職員間での研鑽・プログラムの体系化等をすすめ、質の向上を図っていきたい。
保護者への説明責任等 関係機関や保護者との連携	「支援の内容、利用者負担などについて丁寧な説明がなされたか」では満足度が高く、ペアセッションとグループの提供が3年目となり、より互いに内容・システムについての共通理解をした上で利用いただいていると感じられた。 「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか」「保護者に対して面談や、育児に関する助言の支援が行われているか」では、「日頃から」「面談」のキーワードから「どちらとも言えない」の回答が10～20%あった。	個別支援計画を通したねらいや方法の共有と、保護者同席（観察）による様子の共有を通して、ポイントを絞ったフィードバックを実施している。 次年度については、新たな体制として実施時間の見直しを行う。面談についての情報提供も引き続き行っていく。
非常時等の対応	避難訓練や、防犯・感染症マニュアル等に関して、周知・説明・訓練参加の面で「どちらでもない」「いいえ」の回答が30%～半数あった。月1回の利用のため、当てはまらないという意見が多くあった。	策定されたマニュアルに基づき、避難・防犯訓練については、日中の児童発達の時間帯で行い、職員の意識・技能を身につけている。
満足度	「子どもは通所を楽しみにしているか」「事業所の支援に満足しているか」では、「はい」が85%であった。「どちらともいえない」「いいえ」の回答に関しては、自由記述が得られなかった。	夏に行う学園独自の記名式の療育アンケートや、毎回の保護者用記入用紙のコメントを通して、感想・意見を吸い上げ活かしていく。

<まとめ>

当園の放課後等デイサービスは、学習姿勢の形成、社会性の育ち、適応支援に重点を置いています。

「余暇活動」「保護者活動」等は想定しておらず、回答時に該当しない項目も複数ありました。独自の方針をもった特徴的なサービスを行っている施設となっており、ペアセッション・グループ療育を開始して3年目となりましたが、今回の評価からは、内容や時間帯・頻度といった点で、学園の特徴的なこのスタイルについて、保護者にご理解いただき、納得の上で必要とし利用していただいていると感じられました。

当園は、乳幼児期の児童発達支援での柱となる理念を継承しつつ、小学校生活へのくつなぎの支援を柱にしていくため、2018年4月以降については、当園の放課後等デイサービス事業は休止・廃止とさせていただきます。学齢期の支援として、学園での、また地域への支援として新たに体系づけ、うめだ・あけぼの学園ならではの事業を引き続き展開してまいります。